



開成宮農経済センターからのお知らせ

9月10日(日) 肥料・農薬の即売会を行います!!

～詳細は別紙のチラシをご覧ください!!～

農薬・資材等の自己取り日について

「野菜・果樹 秋肥料・農薬」「ミカン関連資材(果実袋)」「そら豆・玉葱種子」
「被覆植物種子」「ネトラップL」「秋期生産資材」「ラウンドアップマックスロード」

令和5年9月21日(木)・22日(金)・23日(土)

9:00～15:00までに取りに来てください。

技術顧問の日 (園芸相談)	農業の専門家が農作業の相談に応じます。(金曜午後と土曜は不在です。 2日・3日・4日・9日・14日・16日・23日・30日は不在です。 (※上記以外は在席予定となっておりますが、都合により不在の場合がございます。)
お米の日	神奈川県産の玄米を特別価格で販売します。(毎月第2・第4火曜日) 9月12日・26日となります。
棚卸の日	ご迷惑をお掛け致しますが、何卒よろしくお願い申し上げます。 9月29日(金) は棚卸のため、 12時に閉店 致します。 尚、コイン精米機は17時まで営業致します。

～作物管理情報～

—— 【温州みかん】 *下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。 ——

この時期の病害虫防除は、収穫時の外観・品質へ大きく影響します。必ず実施しましょう。

病害虫防除	8月下旬 ~ 9月上旬	
○黒点病	<u>ジマンダイセン水和剤またはペンコゼブ水和剤</u> 600倍 166g/水100㍓	収穫30日前 4回 * 極早生に散布する際は、収穫日に気を付けましょう。
○ミカンハダニ	<u>ダブルフェイスフロアブル</u> 3,000倍 収穫前日 1回 33ml/水100㍓	
ミカンサビダニ	又は	
	<u>ダニゲッターフロアブル</u> 2,000倍 収穫前日 1回 50ml/水100㍓	
○チャノカイガラムシ	スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100㍓ 収穫前日 3回	
ヤノネカイガラムシ	又は <u>エルサン乳剤(劇)</u> 1,000倍 100ml/水100㍓ 収穫14日前 2回	
浮皮軽減	蚩尻期	
フィガロン乳剤 3000倍	収穫7日前まで2回	散布量 300㍓/10a
1回目	蚩尻期に散布	2回目 蚩尻期の2週間後 (※ただし、樹勢が低下している樹には散布しない。)

【中晩柑】

病害虫防除 8月下旬～9月上旬 基本防除はみかんの項参照

* 中晩柑の防除における農薬の使用日数には十分に注意しましょう。

例) シマンダイセン水和剤 収穫90日前 12月上旬収穫のものには散布できません。

○かいよう病 コサイド3000 2,000倍 50g/水100㍺

※強風や降雨を伴う台風の前はコサイド3000(クレフノン200倍加用)を散布しましょう。

施肥 中晩柑は秋季も窒素成分を切らさないようにしましょう。

初秋肥 9月中旬 特選みかん配合655 140kg/10a(後期肥大促進・樹勢維持のため)

* 10月下旬にもう1度施肥を行います。 特選みかん配合655 100kg/10a

【レモン】 *下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょ。

病害虫防除 8月下旬～9月上旬

○ミカンハダニ ダブルフェースフロアブル 3,000倍 収穫前日 1回 33ml/水100㍺

ミカンサビダニ 又は

チャノホコリダニ ダニゲッターフロアブル 2,000倍 収穫前日 1回 50ml/水100㍺

○かいよう病 コサイド3000 2,000倍 50g/水100㍺

黒点病 (クレフノン200倍加用)

○ミカンハモグリガ エクシレルSE(注文取り寄せ品) 5,000倍 20ml/水100㍺

アザミウマ類

収穫前日 3回

施肥 中晩柑の項参照。

【湘南ゴールド】

秋口の摘果では肥大促進効果は低いので、病害虫の被害が著しい果実と極小果を中心に仕上げシンニング(摘果)を行いましょ。裾枝・下垂枝の持ち上げ摘果で2S以下を無くしましょ。

仕上げシンニング (摘果)	9月20日	3.9cm～5.4cm	このサイズを残し、 外観を中心に仕上げ摘果
	11月20日	4.8cm～6.5cm	

仕上げ摘果・枝吊り

10月以降果実の肥大は緩慢となりますので、その前に小玉果、傷果を摘果し、果実の大きさを揃える。果実の重量で枝が折れたり、裂けやすくなるので、重たくなる前に、枝吊り、枝支えを必ず行いましょ。

施肥 中晩柑の項参照

【いちじく】 *下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょ。

追肥 8月～11月

樹勢回復と貯蔵養分増加のために、NK化成2号を20kg/10a施用する。

病害虫防除 9月(秋雨前)

○疫病 雨が続いた場合は疫病の注意が必要です。

ランマンフロアブル 2,000倍 50ml/水100㍺ 収穫前日 3回

【くり】

病害虫防除 9月(収穫7日前まで)

○クリシギゾウムシ モスピラン顆粒水溶剤(劇) 2,000倍 50g/水100㍺ 収穫7日前 3回

* 早生品種との混植園では、早生品種を収穫した後に散布を行いましょ。

収穫

自然に落果した物から速やかに採取しましょ。遅れると虫の被害が多くなります。

【水 稲】

水稻の生育状況

令和5年産水稻の生育状況は、草丈は平年と同等～やや長く茎数はやや少ない傾向です。出穂期は平年並み～やや早い状況です。今後の気温は高い予報となっています。水管理で稲への負担を軽減しましょう。

水管理

出穂後35日(収穫7日前頃)を目安に落水を行いましょう。(土壌条件にもよります。)

落水が早いと登熟が悪くなります。登熟不良や胴割れを防ぐために、完全落水は収穫作業に差し支えない範囲で出来るだけ遅らせましょう。

高温時対策

気温が高くなると品質の低下が起こりやすくなります。その対策として出穂期～登熟期には間断かん水、かけ流し、又は夜間入水を行いましょう。(特に、夜温が高い日はできる限り夜間入水して、水温を下げ、稲の呼吸による消耗を防ぎましょう)

収 穫

収穫適期は、穂に青籾がキヌヒカリ・はるみ・てんこもりは15%、さとじまんは10%残る時期です。

平年の収穫目安 (5月25日田植えの場合)

キヌヒカリ・はるみ 9月14日頃 てんこもり 9月20日頃 さとじまん 9月25日頃

乾 燥

収穫した籾は、ムレを防ぐため4時間以内に乾燥機に入れましょう。

コンバインで収穫した籾を急激に乾燥させると胴割れし易くなるので、風乾燥を4～5時間行い水分が20%前後になってから火力乾燥(40℃を越えない)し、玄米水分含量を14.5%～15%に調整しましょう。

(循環式乾燥機をお持ちの方は、取扱説明書に従い作業を行いましょう。)

機械の取扱い

農作業の安全と品質の確保の為、取扱説明書をよく読み、機械の性能に合わせて無理せず作業しましょう。

——【キウイフルーツ】 *下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。——

病害虫防除 9月上旬

○果実軟腐病 バルコート水和剤 1000倍 100g/水100㍓ 収穫前日 5回

*カイガラムシ多発園

9月上旬～中旬に トランスフォームフロアブル 2000倍 50g/水100㍓ 収穫3日前 3回
又は モスピラン顆粒水溶剤(劇) 2000倍 50ml/水100㍓ 収穫7日前 3回

施 肥

9月中旬と10月中旬に分肥 キウイ配合 100kg/10a

後期肥大は、年間肥大の20%程度あります。

肥料の分肥は9月中旬に60%、樹勢回復には10月中旬に40%の2回に分けて行う事で効果上昇。

【う め】

夏季剪定 9月中旬頃までに、縮間伐・立ち枝の間引きを実施しまししょう。

樹の内部に光を入れることで、花芽分化の促進をします。また、夏季剪定の際に残す枝の葉を落とすと翌年の花芽分化に悪影響します。注意しまししょう。

※灰星病発生園での剪定について

- ・結果枝(実のなる枝)に症状がある場合は、切り落とします。
- ・被害が多い場合は、側枝単位で切り落とします。
- ・樹全体に症状が広がっている場合は、健全な枝(緑枝など)を残し切り落とします。

剪定枝は発生源になるので、必ず園外廃棄しまししょう。

【か き】

枝つり

着色を良くするために、果実の重みで下がった枝を吊り上げて、光を入れるようにしましょう。

病害虫防除

7月上旬～10月下旬 カメムシ（夜間に飛来と加害が多いので、夕方に防除しましょう）

○モスピラン顆粒水溶剤（劇） 4,000倍 25g/水100ℓ 収穫前日 3回

○アクタラ顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫3日前 3回

* カメムシは山林から飛来して加害します。園の一部に加害が集中する場合があります。園内を良く見回り、加害を発見した時は防除しましょう。（早生種では、加害時期と収穫時期が重なります。収穫前日数には十分に注意しましょう。）

【お 茶】

施肥 秋肥 9月中旬

秋肥は、貯蔵養分として来年の一番茶に利用されます。光合成が活発化する10月～11月に貯蔵養分として吸収され、越冬芽の充実度に反映し、来年の収穫量を左右します。2回に分肥し、1回目と2回目の施肥の間隔は20日程度を目安とします。

1回目 8月下旬 足柄茶配合033 80kg/10a

2回目 9月中旬 足柄茶配合033 80kg/10a

病害虫防除の徹底をお願いします。

病害虫防除 8月中旬～9月上旬

○チャハマキ ファルコンフロアブル 4,000倍 25ml/水100ℓ 摘採7日前 2回
チャノコカクモンハマキ

【野 菜】

タマネギ

播種の半月前までに、完熟堆肥（2kg/m²）・苦土石灰（100g/m²）を施し、よく土と混和しておきます。

未熟堆肥の施用は、タネバエの発生を助長しますので避けましょう。

水稻の後に苗床を作ると病害虫の発生が少なくなります。9月20日～25日を目安とし早生は早めに、中生は遅めに種をまきましょう。育苗日数は55日～60日を目安とします。

病害虫防除

○タネバエ ダイアジノン粒剤5 300～500g/a 播種時または定植時 2回以内

※農薬名に網掛けがあるものは、購入時に印鑑が必要となります！

農薬を使用する際は、適用作物・希釈倍数・使用回数・使用方法等の使用基準を遵守するとともに飛散防止に努め、ラベルをよく確認し、必ずラベルに基づいて使用しましょう。

<注意>

「収穫〇日前」：定められた使用時期。記載されている収穫前日数まで散布ができます。（前日は24時間前）

「回数」：農薬成分の総使用回数のこと。栽培期間中、何回散布可能か確認しましょう。

△△店舗により農薬の在庫状況が異なりますので、記載の農薬を購入される場合は購入先の店舗に事前に在庫確認をしていただくとスムーズに購入できます。△△

開成営農経済センターだより別刷

《有害鳥獣情報～イノシシ編～》



※生態・身体能力

大きさ ・体長100～170cm ・体重80～190kg ・成獣の鼻の高さはおよそ20cm

- 特徴** ・本来警戒心が強く臆病で注意深い為、人前にはあまり姿を現しません。
- ・しかし、慣れてしまうと大胆不敵な行動をとるようになります。
 - ・昼行性で人間と同様に、太陽の出ている時間帯を生活時間に行っている動物です。
 - ・一度に4頭前後を年1回出産。通常は春に産みます。秋に再度産む事もあります。

身体能力①

- ・ジャンプだけでも軽く70cm、最大120cmは飛び越えられます。
- ・足をかけ、時間をかければ、2mの高さも登ってしまいます。

身体能力②

- ・基本的に下をくぐることを最優先します。20cmの隙間までならくぐってしまいます。
- ・柵があっても、柵と地面の隙間を広げて入ろうとするので、地面の際は要注意！

身体能力③

- ・70kgほどの石なら鼻で動かせます。

※被害防止のために

以下の基本となるいくつかの対策を組み合わせることが重要となります。

①隠れる場所をなくす！

イノシシは開けた場所を嫌います。このため山林内や藪に沿って移動することが多く、真っ先に狙われるのは山林や藪に面した農地です。

イノシシは本来警戒心が強い動物です。草木の刈り払い等をする事で柵や周辺の見通しを良くし、隠れる場所をできるだけなくすことで、簡単な柵でも設置効果を上げることができます。

②防護柵の設置が効果的！

イノシシは縄張り意識が弱く、一度でも侵入された農地には次々とイノシシが現れます。

金網・トタン・ネット・金網等を使った柵や、電気柵などの防護柵が効果的です。高い身体能力にあわせて十分な強度を持たせて設置する必要があります。

③エサになるものを野外に放置しない！

柵の外にエサとなるものがあればイノシシを呼び集めてしまいます。集落内にエサとなるものが野外に放置されないようにしましょう。

また、収穫されない果実や捨てられた野菜など、放置されたものがイノシシのエサになっています。隠れ場所を無くし、エサを与えない環境づくりを心がけましょう。

④活発に動く人の姿が最も効果的！

イノシシが一番怖いのは人間です。田畑で活発に動く人間の姿を見せるのが最も効果的です。被害を受けやすい場所では定期的に見回るとよいでしょう。

裏面にもお知らせがございます。

<水稲 斑点米カメムシ類の発生に注意！>

農業技術センターからの予察注意報によると、一部地域にて予察灯への誘殺数が増加しています。斑点米カメムシ類は登熟期の稲を加害し、斑点米の原因となります。

水田周辺の雑草管理と適期薬剤防除をあわせて行ってください。

【雑草管理】畦畔および周辺のイネ科雑草の管理

収穫 2 週間前まで	水田内への斑点米カメムシ類の移動を促すことになるため、除草を控える
収穫 2 週間前以降	定期的に除草を行う

【薬剤防除】防除適期は水和剤・乳剤等の場合は出穂 10 日後と 24 日後頃、粒剤の場合は出穂 7 日後と 21 日後頃です。両方の適期に防除を行うとより有効です。

<防除薬剤例> ※店舗在庫がない場合がありますので、購入の際は事前に店舗にご確認ください。

○スタークル粒剤 3 kg/10a(収穫 7 日前 3 回) ○スミチオン乳剤 1000 倍 (収穫 21 日前 2 回)

○ダントツ粒剤 3~4 kg/10a (収穫 7 日前 3 回) ○トレボン乳剤 2000 倍 (収穫 14 日前 3 回)

お米の出荷は J A へ!! ~令和 5 年産米の出荷をお願いいたします!~

○子ども達のために！学校給食用米が不足しています！

県内全体で 3,500 トンが必要ですが、1,500 トン以上不足しています!

○安定的な販売先確保のために

新型コロナウイルスにより、外食用需要が減り、他産地ではお米が余り米価にも影響が出てきています。販売先に苦勞している業者もいます。しかし、神奈川県では J A に出荷することで確実に販売され、出荷契約を結んでいけば出荷後すぐに概算金をお支払いできます。

○ J A に出荷し、学校給食への供給量を伸ばすことで、神奈川県産米の価格安定に繋がります！

【出荷契約された方】

出荷後、約 1 週間で「概算金」をお支払いします。また、契約数量に対し、**95%~120%までの範囲内で出荷されたお米には 500 円/1 袋お支払いいたします。**(下限は小数点以下切捨て、上限は小数点以下切上げ)出来る限り、**契約数量に対し 100%以上**の出荷をお願いいたします!

【出荷契約をしていない方】

春に出荷契約を結んでいない方も、出荷することができます。ただし、出荷後に「概算金」をお支払いしますが、加算金はつきません。出荷にあたっては所定の手続きが必要となりますので、営農経済センターにお問合せください。

※インボイス制度の都合上「組合員」名義で出荷いただく必要がありますのでご注意ください。

お問合せは営農経済センターまで